

同窓会だより

編集発行／岐阜県立本巣高等学校同窓会本部事務局
 (〒501-04 岐阜県本巣郡糸貫町仏生寺・TEL (0583) 24-1201)

卒業生総数：

21,960人

旧 中： 2,571人

高 女： 2,592人

高 校： 16,797人



空から見た本巣高校周辺

ご挨拶

同窓会長

井深透

新年明けましておめでとうございます。

一九九二年の輝かしい新春を、二万一千有余名の同窓会員の皆様と共に迎えることができましたことは、誠に慶びに堪えない次第でございます。

同窓会員の皆様には、ますます御清祥にて各方面に御活躍・精進されておられますことは御同慶の至りに存じます。歳月の流れるのは速いもので、母校は創立以来七十二年になります。卒業生の数も二万一千九百六十名になりました。教育効果は年々向上し、進学の成果・部活動の全国的活躍など母校の発展は喜ばしい限りでございます。

同窓会の過ぎ去りし一年の歩みを御報告申し上げます。

本部総会は昨年八月十日に岐阜市長良川畔の「十八楼」において岐阜支部と合同で開催され、当日の出席者は二百名を越えまして、和気藹々のうちに青春時代の思い出話に花を咲かせました。また当日は、喜寿を迎えてられました方をお招きし、思い出の写真を添付したアルバムを贈呈致し、心からの御祝辞を申し上げました。

関西支部の総会は昨年五月十九日に神戸の国際会館で開催され、出席者は四十名程であります。長年支部長として格段のお骨折りを頂いておりました日清鋼業の会長の山田さんに代わり、中央観光の社長の所さんが就任されました。名古屋支部の総会は「かに本家」で開催され出席者は三十名程であります。京浜支部の総会は八月一日に鉄鋼会館で開催され出席者は四十名程であります。各職域における同窓会も各地で行われ、会員相互が横の連絡を保ちながら友情の絆を強められております。

同窓会は本部支部を通じて回を重ねることに出席者が増加し、かつて同じ学舎を築立ちました者が一堂に会し、親睦を深めておられますことは御同慶の至りに存ります。

今年の本部総会は岐阜市において八月第二土曜日に開催致します。場所・時間は各支部長、理事を通じて御連絡致します。是非とも御出席下さることを期待致します。

寒さも今しばらく続きますが、なにとぞ健康に留意され、ますますの御健勝と御多幸をお祈り申しあげます。

(平成四年一月一日・記)

アップリケ教育に想う

学校長 小嶋堯徳



本校の前身である岐阜県立本巣中学校と、岐阜県立本巣高等女学校は、学区制改革により昭和二十三年四月一日それぞれ岐阜県立本巣高等学校、岐阜県立本巣女子高等学校となり、同年八月十八日に統合して岐阜県立本巣高等学校となりました。

本巣高等女学校は、大正十年四月十八日に北方町で開校されましたが、高等女学校時代二十七年間に「五九二」名の卒業生を社会に送り出しております。これらの卒業生の中には、本巣高女のアップリケ教育を受けた方々が多くあると思います。アップリケが廃物利用の手芸として教材研究により入れられたのは、昭和十二年からです。当時美術部の顧問として、日本古来の綴れ織りの研究をされていた可知茂先生の指導により新生面が開拓されたのです。早くも、第一回アップリケ作品展が第十三回卒業生を中心とする同好会により昭和十三年八月二十五日から名古屋松坂屋において開催され、作品も帶・壁掛・鏡掛・座ふとん・日傘等多彩に及んでいたとのことです。昭和十四年六月二十日「新愛知」新聞紙上に

は、「廃物利用の工芸品・文部省督学官も日本一品の折紙をつく、本巣高女の特殊教育」と報じています。その後昭和十四年八月二十日から松坂屋において、更に昭和十五年三月九日より東京上野松坂屋において、アップリケ作品展が開催され、同時に文部省督学官、美術学校教授が、婦人雑誌「主婦の友」誌上に「本巣高女の創造教育を賛美する文」をのせられました。詩人深尾須磨子女史は、「よくもこれまでと思わず嘆声を放たずにはおれない。細やかな乙女心のこもった詩的所産 その材料や色彩の配置が明るく新しく技術の巧みさ、あんな仕事を何の野心もなく、やっている女性は、きっとその心まで清く美しくなって行くにちがいない」と推薦文を寄せられていました。

高等学校になつて、昭和三十五年より実施されている、財團法人全国高等学校家庭科教育振興会主催・文部省後援による全国高等学校技術検定において、食物・被服・洋服それぞれ一級三種目合格者に対する「三冠王」の表彰制度が、昭和五十七年度より制定されました。本校の家政科の生徒は、全員がこの「三冠王」を目指して、家庭科目の学習に励んでおります。こうした技術検定は、家庭科教育の基礎・基本の徹底及び人間性豊かな生徒の育成に寄与するものと思っております。卒業生の殆どが、毎年度「三冠王」として表彰されており、表彰者の総数は、全国一となつております。本巣高等女学校時代の「アップリケ教育」は、本巣高等女学校になつてからは、別科・生活科・家政科と学科は変遷いたしましたが、現在は家政科生徒の「三冠王」として生き続けています。

は、「廃物利用の工芸品・文部省督学官も日本一品の折紙をつく、本巣高女の特殊教育」と報じています。その後昭和十四年八月二十日から松坂屋において、更に昭和十五年三月九日より東京上野松坂屋において、アップリケ作品展が開催され、同時に文部省督学官、美術学校教授が、婦人雑誌「主婦の友」誌上に「本巣高女の創造教育を賛美する文」をのせられました。詩人深尾須磨子女史は、「よくもこれまでと思わず嘆声を放たずにはおれない。細やかな乙女心のこもった詩的所産 その材料や色彩の配置が明るく新しく技術の巧みさ、あんな仕事を何の野心もなく、やっている女性は、きっとその心まで清く美しくなって行くにちがいない」と推薦文を寄せられていました。

井深透同窓会長の挨拶に続き、小嶋堯徳学長より母校の近況報告、岐阜県議会議員杉山友一氏（25年卒）より丁重な御祝辞を頂き、されました。

その後、八代義隆氏（14年卒）を議長に選出し議案の審議に入りました。

左記議案について、いずれも原案通り全会一致で可決承認されました。

一、平成二年度事業並びに会務報告

二、平成二年度決算報告

三、会計監査報告

総会報告

同窓会事務局長

松浦 三木彦



四、平成三年度事業計画案

五、平成三年度予算案

六、創立五十周年記念奨学金給付報告

岐阜市長良川河畔の岐阜観光ホテル「十八楼」にて二百名を越える出席者を得て盛大に開催されました。岐阜市長良川河畔の岐阜観光ホテル「十八楼」にて二百名を越える出席者を得て盛大に開催されました。

甲子郎、筑間房子、古田義郎、田辺清高、豊田義道、河合敏緒、篠田一鳳、松井幸子、後藤正紀、沢美智子各氏の先生方を囲み、和やかな歓談が行われました。

昨年度より「喜寿」の御祝いを行つております。本年度は高女（昭和6年卒）と旧中（昭和7年卒）の出席の方々へ井深透同窓会長から記念品のアルバムが贈呈されました。楽しい新旧の交歓会も昔の思い出話に花が咲き、時のたつのを忘れるほどでした。杉山友一氏の「乾杯」で始まつた会食も、やがて滝本良純氏（36年卒）の指導で校歌を声高らかに齊唱し、林秀一氏（大正15年卒）の万歳三唱によつて盛会裡に終了することができました。本部総会及び懇親会を開くにあたり、岐阜支部長佐倉式三氏並びに岐阜支部の方々、昭和三十六年卒業の方々に多大な御支援をいただき、深く感謝しております。

なお、平成四年度の本部総会は八月八日㈯に開催する予定になつております。本会の盛会を期して、より多くの会員の方々の御出席を願願する次第であります。



"熱き出会い"をありがとう

—次回は平成六年の夏に—

昭和三十六年卒 中島 洋晃

同窓会本部事務局のご支援により、昭和三十六年卒業生一〇〇名が一堂に集まることができました。当日は四名の恩師の先生にもご来駕頂くことができ、恩師との三十年前の思い出話しが弾み、今は昔となつた若き青春時代に漫る一時がありました。お互いに酌み交わす杯には同窓生ならではの味がありました。

社会の中堅幹部として、あるいは中心的なリーダーとして、更に各方面で多種多様に貢献されている姿を垣間見ることができました。思えば、「質実剛健・志操堅固」の校風に培われた母校に学んだ事が、今に生き続けていることを実感することができました。

この年次総会に多数のご参加を得、盛会裡に会を運ぶことができましたのも、母校を慕う心の証ではなかつたかと思ひます。世話人二十一名共々に心よりお礼申し上げます。

会を開じるに当たつて、会場のあちこちから「こうした良い機会を継続的に……」といふ声もあり、今後は三年毎に開催することが全会一致で承認され、次回を平成六年八月に開催することになりました。

私達の十年後は熟年を迎え夢や希望が膨らむ新世紀もあります。新世紀創造のために意欲的に頑張つて行きたいものと想ひます。

最後に、母校及び本会のさらなるご発展を祈念し、逝去された恩師の柏谷先生、同窓の七名を偲びつつペンを置きます。

支部だより

関西支部

支部長 所 敏勝

平成三年度第十八回の関西支部総会におきまして、前支部長並びに役員・同窓の皆様の推挙により、新たに支部長に就任致しました所敏勝でございます。前支部長の山田千秋先生には、長い間御苦勞、お世話をかけましたことを心から感謝しお礼申し上げます。

さて本年度の総会は、五月十九日あたかも港神戸の祭りの当日、大パレードが繰り広げられたフラワーロードの角地に立つ国際会館にて、本部より井深会長、小嶋校長、松浦先生の御三方をお招きして開催されました。

総会は同窓会長・学校長・新しく就任された事務局長松浦先生のご挨拶やお祝いの言葉で始まり、留任の松村久子副支部長の司会のもと議事進行。山田支部長より役員人事につき提案、満場一致の賛同を得て新役員の決定を見ました。支部長は所敏勝(昭35卒)、副支部長は福富芳彦氏(昭31卒)と松村久子氏(昭36卒)です。引き続き懇親会に移り、熱気と和やかな歓談の中に幕を閉じました。

その後、中央観光バスの就航直後の新車・ダイムラー40で神戸名所の六甲山へドライブしました。車内でも懇親会は続き、お互いに旧交を温め、関西支部会員の和が大いに深められました。来賓お三方をJ.R新神戸駅にお見送りし、さらに夜の大坂湾岸ハイウェイのドライブを楽しみました。

平成四年度の総会、開催地は新支部長に一任との事、支部会員の参加増を願い今後計画を立てていきたいと考えております。母校の益々の発展と同窓諸兄姉の御健勝、御多幸を祈りながら支部総会の報告と支部長就任の御挨拶と致します。

京浜支部

支部長 神谷春樹

当支部総会は平成三年八月二日、日本橋茅場町「鉄鋼会館」にて開催しました。

当時は、井深会長、小嶋校長、松浦先生の三氏のご出席に、支部会員(男性二十五名、女性十三名)三十八名の出席を得ました。

冒頭、神谷支部長の報告、井深会長のご挨拶ならびに小嶋校長の、母校の近況を含むご挨拶を受けたのち、懇談に入りました。

懇親会は、カラオケで美声を披露された男性会員や、女性会員の挨拶もあつたりして、盛会のうちに終わりました。

次回には、ぜひ大勢のご参加をお待ちしております。

岐阜支部

支部長 佐倉式三

平成三年度岐阜支部総会は、昨年同様本部総会終了後に開催し、高橋副支部長の議事進行にて、会計報告(村木幹事)、監査報告(岩田副支部長)続いて全役員の留任を決めて終了しました。

当支部からも多數の総会出席ありがとうございました。尚支部総会開催に当たつての本部事務局のご理解とご協力に深く感謝致します。

本部総会が岐阜市内となりますと支部総会も同時開催となりがちですが、支部会員の皆さん、本部総会の盛会を期すためにも、お誘い合わせの上奮ってご出席下さい。

名古屋支部

支部長 棚橋範夫

平成三年六月九日、「かに本家女子大小路店」にて本部から井深会長、小嶋校長、木村先生の御出席を頂き、同窓生二十四名(男性十六名女性六名)の出席で本年度の総会を開きました。井深会長から本東高校創立七十周年の歩み、小嶋校長から部活動・進学の実績などの輝かしいお話をして頂きました。その折七十周年の記念誌を頂きましたが、部数に限りがありましたので出席者の卒業年度の早い人だけに配付しました。

山田武夫さん(昭10卒)の司会・安藤一雄さん(昭3卒)の音頭で乾杯し、宴は和やかに終始し、記念撮影の後井深会長の万歳三唱で閉会としました。これからもより多くの方々の参加を期待しています。



部活動等報告（平成三年度）

〔運動系〕

○ 東海高校総体出場

ソフトボール部（14名）

女子バレー部（12名）

陸上部 個人（6名）

○ 全国高校総体出場

ソフトボール部（14名）

国民体育大会（石川県）出場

女子バレー部（12名）

岡田多香子・岡田 千穂・（寺園 千夏）

○ 県高校総体

ソフトボール部 優勝

バレー部 三位

○ 書道部

県展 優秀賞

奥森 玲子・山田 恵子・郷 依口子

○ 文化系

ソフトラボル部 優勝

バレー部 三位

○ 放送部

全国高校放送コンテスト出場

○ 演劇部

朗読部門 国江 礼子

○ 演劇部

中部高校演劇大会 優秀賞

○ 吹奏楽部

岐阜県ソロコンテスト

○ 第二十五回全国高校生

絵画・写真・映像コンクール

学校協力賞

○ 銅賞

青山由美・入選16名

「十年連続優勝の栄光」

女子バレー部

ソフトボール部

本校ではよく「質実剛健・文武両道」と言われる。それが伝統である。

授業はもとより、補習も宿題も決して楽でない。そうした厳しい勉学に励みつつなおり朝から闇の下りるまで、炎天も酷寒も物ともせず、グランードを走り回っている運動部員

の声の何と爽やかなことか。

とりわけソフトボール部と女子バレー部

部の活躍はめざましく、十年連続県大会優勝を果たしている。「困難こそ最良の教師」と

言う。彼女達は先輩の栄光を担いながら発展させるべく、様々な困難に耐えひたすら練習と努力を重ねている。三年間の部活動を通じて培った根性と、十年連続優勝を果たした誇りは、彼女達の一生を支える「一種の資本」

と言えよう。

次にこの二つの部で活躍した選手の手記を紹介する。



「県高校総体10年連続優勝」

熊田奈津枝

平成三年ソフトボール部主将

54年度卒 パー

三石(野入)菜美子

本巣が本巣高校のユニホームに袖を通して

三年が過ぎました。昨年の秋、新チームにな

り、本巣の伝統を守るために、大きなプレッ

シャーを感じましたが、それも「伝統」とチー

ムワーク」を合い言葉に、練習に励んで来ま

した。三年生最後の大会は、10年連続優勝が

かかった県高校総体であり、この大会だけは、「勝ちたい」というよりも「負けられない」

という思いを感じました。プレッシャーから一回戦は苦戦をしたもの、あとは順調に勝ち進み10年連続優勝を達成出来ました。

大変な喜びと感激でした。私が部長としての責任を果たせたのも、先生をはじめ、チームメイトのおかげだと思っています。本巣高校のユニホームを着られたことは、私達にとって一生忘れられない思い出として心に残ることでしょう。

後輩の皆さんもこのユニホームに誇りを持ち、大きな夢に向かって頑張って下さることを祈っています。

今では、連続出場という伝統の扱い手となつたことは私達の大変な誇りとなっていますが、先輩方から後輩に至るこの大きな道程が、今後もバレー部の中に生き続け、部活動の大好きな目標となり、部員の励みとなっていくことを祈っています。

そんな時、多くの先輩方が、練習に参加して下さり大変充実した練習を重ねることができました。そのかいがあり選抜大会ではベスト8に、そしてインターハイではベスト4まで進むことができました。私達の代を助けてくれた後輩達もインターハイ連続出場10年目を立派に果たしてくれました。私達の代を助けて進むことができました。

今では、連続出場という伝統の扱い手となつたことは私達の大変な誇りとなっていますが、先輩方から後輩に至るこの大きな道程が、今後もバレー部の中に生き続け、部活動の大好きな目標となり、部員の励みとなっていくことを祈っています。

今年度叙勲の栄誉に輝かれた方は次のとおりです。心からお祝い申し上げます。

慶事

☆ 寺田 嶽（旧中12回卒） 勳五等瑞宝章 矯正教育功劳

☆ 高橋 直行（旧中6回卒） 勳五等瑞宝章 教育功劳

☆ 佐藤 伸（旧中12回卒） 勳五等瑞宝章 地方自治功劳

☆ 寺田 嶽（旧中12回卒） 勳五等瑞宝章 矯正教育功劳

☆ 高橋 直行（旧中6回卒） 勳五等瑞宝章 教育功劳

☆ 佐藤 伸（旧中12回卒） 勳五等瑞宝章 地方自治功劳

「インターハイ出場の思い出」

54年度卒 パー

本年度は会員の中で次の方々の逝去のお知らせを受けました。謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

○ 畠谷 秀樹（恩師） 3・6・30 死亡

○ 堀 俊学（中8回） 3・1・6 リ

○ 白木 磨一（中11回） 3・2・13 リ

「勝ちたい」というよりも「負けられない」中での出発でした。